

第5回学校建設準備委員会 視察報告

- 1 日にち 2024（令和6）年5月20日（月）
- 2 視察先 八王子市立いずみの森義務教育学校（東京都八王子市子安町2-18-1）
- 3 参加者 【八王子市教育委員会】地域教育推進課長、統括指導主事、指導主事
【いずみの森義務教育学校】校長、副校長、副校長
【真鶴町】大塚委員、藤井委員、玉田委員、小林委員、竹原委員、露委員、朝倉委員、古川委員、伊藤委員、倉澤委員、露木委員、市川委員、瀨瀨委員、長澤前委員、清水教育課長、塩田学校建設専任課長、上甲主査、奥村学校教育指導員、池田学校司書

4 学校概要

【校長挨拶】

- ・八王子市初の義務教育学校。隣接の小中学校（1小1中）を統合。
- ・児童生徒1342名、教職員126名。1～9年の縦割りを重視。
- ・春開催の運動会は2日間で実施。

【副校長】

- ・八王子市再開発 → 八王子駅周辺の人口増 → 中学校の教室不足 → 小中一貫校
- ・H23 小中一貫校準備研究スタート
H27～ ・「小中一貫教育・学校施設の複合化に関する施設計画・設計プロセス構築支援事業（文部科学省）」の指定・支援を受ける。
- ・いずみ野森小中学校改築検討委員会設置（～28.2まで月1回、計8回）
→ 各関係者との合意形成を踏まえた基本構想・基本計画の策定。

■学年区分

- ・「4－3－2制」、第5学年から50分授業、教科担任制、定期テスト導入。
- ・9学年をⅠ期（1～4年）、Ⅱ期（5～7年）、Ⅲ期（8・9年）に区分。

■教職員組織

- ・校長1人、副校長4人、副校長は特別支援、Ⅰ期、Ⅱ期、Ⅲ期の統括責任者。
- ・「経営会議」＝管理職＋主幹教諭
「企画調整会議」＝管理職＋主幹教諭＋学年主任
- ・100名を超える全教職員が参加する会議はない。

■時間割

- ・Ⅰ期＝45分、Ⅱ・Ⅲ期＝50分授業
- ・1・3・5時間目の開始をそろえる工夫（開始時だけチャイム）
 - メリット ①異学年と一緒に縦割りの清掃ができる。
 - ②交流授業の設定ができる。

- デメリット ①5年生の負担大、給食の時間も短くなる。
- ②中休みがなく、外で遊ぶ時間が減り体力低下の懸念。

■5・6年生の教科担任制

- メリット ①教材研究に時間をかけられる。
- ②教科の専門性を高められる。
- ③学年の全児童を教科指導できる。
- デメリット ①時間割の作成が困難。

■縦割り活動

- ・日常的に第Ⅱ期・Ⅲ期の児童・生徒が第Ⅰ期の生活をサポート
 - ➡ 上級生は、これまで以上に上級生としての自覚、自己肯定感の向上
 - 下級生の「憧れのモデル」
- ・交流授業は、4月の教科部会で異学年交流の内容・時期を検討
 - ➡ 同じ時期に似たような学習内容がないか探す。
 - 上級学年がお世話をして、下級生の学習とならないことは避ける。
 - (例) 7・3年生：郷土学習「八王子カルタ」「人物カルタ」、理科学習
 - 8・4年生：地域安全マップづくり
- ・九九の学習（8・9年生と2年生）
 - ➡ 上級学年の学習にはならないので、朝の時間等に設定。ボランティアを募る。
- ・わくわく清掃
 - (目的) ①1年生から9年生までの縦割り班で清掃をすることで、同じ学校に通う帰属感を高める。
 - ②異年齢集団で交流し、協力することの良さを学ばせる。
 - ③様々な年齢の人に対応できる柔軟性や社会性、コミュニケーション能力を養う。
 - ④義務教育学校の最高学年である9年生の姿を間近に見ることで、自分のめざすべき未来の姿を思い描く機会とさせる。(1～8年生)
 - ⑤義務教育学校の最上級生として、リーダーシップを育てる(9年生)

■クラブ活動・部活動

【クラブ活動】(文化：9、運動：7)

- ・水曜日の5校時に実施(60分間、年間15回)。
- ・前期課程の教員がそれぞれのクラブを担当。
- ・後期課程は、4校時終了後下校する。部活動に関しては、クラブ活動と活動場所が重ならない範囲で実施している。

【部活動】(文化部：6、運動部：10)

- ・7年生進級時の部活選択の一助とするため、5年生から、6年生から、7年生から、と柔軟に参加できる部活動を設定。
- ・前期課程の教員は、手伝いができる教員が参加している。

5 八王子市の教育について【統括指導主事、指導主事、地域教育推進課長】

- ・ いずみの森義務教育学校は、旧校舎の解体や仮設校舎の設置も含め、総額 79 億円。
- ・ 現在八王子市で計画している新設校は、物価高もあり 100 億円超。

6 校内視察

① 可動床式プール（屋上）

- ・ 温水ではないが可動屋根があるため、室温・水温を維持でき、長い期間プール利用が可能。
- ・ 床は 10 分休みで高さ調節（0.8m～1.0m）できる。
- ・ 冬は床を上げ、人工芝を敷いて運動スペースとして体育や休み時間等に利用。体育館と同程度の面積がある。
- ・ 維持費などコストがかかる。いずみの森義務教育学校以降、施設統合を進めている学校はプールを設置せず、市内プールでの民間委託をする方向。

② 4 階～3 階

- ・ 階段の幅は全て低学年の児童に合わせている（約 16 cm）。二重の手すりを設置。
- ・ 広い廊下（ワークスペース）…災害時、1000 人以上が避難するにはスペースが必要
- ・ 7～9 年生は教室と廊下（ワークスペース）の間に間仕切り ➡ 集中できる環境
- ・ 1～6 年生は教室とワークスペースの間を連続引戸にし、様々な活動に対応可。
- ・ 職員室が 1 階のため、3・4 階にはティーチャーズコーナーを設置。先生の教材等を置く場や教育相談を行う場として利用（施錠せず）。
- ・ 各教科室（社会、生活、算数・数学、図工、美術、英語）は前後期 2 室ずつ設置。
- ・ 特別教室（理科室、技術、調理、被服）は全学年が利用。
 - ➡ 室内を見やすくする、成果物を廊下側に掲示。 ➡ 下級生の関心を高める。
- ・ リソースルームを新たに設置 ➡ 教室に入れない児童生徒の居場所
外壁を木で温かく落ち着ける雰囲気づくり

③ 2～1 階

- ・ 昇降口…7～9 年昇降口、3・5・6 年昇降口、1・2・4 年昇降口を分けて動線確保、長靴が入るよう工夫、高さとお行きにゆとり。
- ・ 前後期で使用する階段を分ける。
 - ➡ 壁に青い線（青階段）、ピンクの線（ピンク階段）
 - ➡ 子どもが把握しやすい工夫。
- ・ いずみのほっとルーム
 - ➡ 教職員の健康維持、回復を目的。搾乳可。共済組合の支援。
- ・ いずみの森図書館
 - ➡ 小中一緒に利用（1 万 8000 冊強、八王子市立学校で一番の蔵書数）。
 - ➡ 小学生には刺激の強い本＝YA（ヤングアダルト）コーナー
※5 年生以上が借りられる
 - ➡ 普段は学校司書、司書がいない日は地域のボランティアが貸し出し等の運営

※中休みはいつでも明るく、いつでも利用できる

- ・大体育館（32m×38m）、小体育館（32m×20m）
 - ➡ 避難所となることを想定し、空調を設置（大体育館 12 基、小体育館 6 基）。
 - ➡ 大体育館の壁に、旧小中学校の校歌の歌詞板。
 - ➡ 夜間や休日は地域に開放、夜は守衛さんがバリケード（引出し式）を出して、地域の人が学校のスペースに入れないようにしている。
- ・給食室
 - ➡ 1～9 学年分を調理。
 - ➡ 給食調理員が打合せのできるスペースあり。
 - ➡ 中で調理しているところを見やすくすることで、どのように自分たちの給食がつけられているか学べる。
- ・玄関横…旧小学校、旧中学校の校旗
- ・職員室…学年ごとに山で分けている。マイクで打合せ。
- ・グラウンド
 - ➡ 砂ぼこりが少なく、水はけのよい土。
 - ➡ 大きな樹木が 1 本だけ。
- ・トイレ
 - ➡ さまざまな利用者を想定（手すり、手洗い場の高さ、十分な個室スペース）。

※校長の話

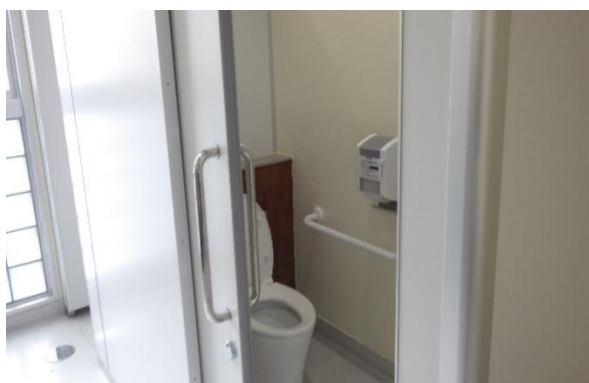
【義務教育学校での成果】

- ・年齢の離れた児童生徒の交流により、特に 8・9 年生は下級生を労わる心、思いやりの高揚が見られ、上級生として「憧れのロールモデル」という自覚が高まっている。
- ・9 学年をとおして低学年から人間関係づくりを支援することで、問題行動の予防となっている。
- ・前期課程の児童が後期課程の生徒と一緒に生活することで、「自分がいま学んでいることが、将来どう生かされるのか」を間近に体験できる。
- ・教職員の 9 年間を見据えて指導にあたる意識が向上した。

◆さまざまな利用者を想定したトイレの手洗い場



◆さまざまな利用者を想定したバリアフリーのトイレ



◆多目的スペースとして利用できる広い廊下、空調も設置



◆プロジェクター映写対応黒板



◆低学年に合わせた階段幅と二段組の手すり



◆避難所として使用される体育館に空調設置



◆調理過程を学べる、中の見える調理室



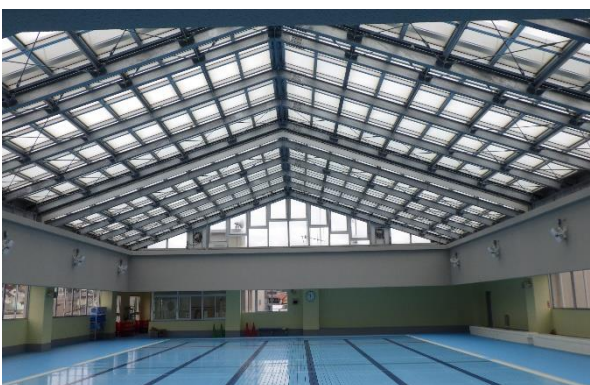
◆木製ベンチでぬくもりを感じる憩いの場



◆様々な教科の情報を発信する廊下の掲示



◆屋上プール（可動屋根、可動床）



◆教職員のリフレッシュスペース



◆コンピュータ室を併用した学校図書館。地域協働本部の支援でいつでも利用可



◆教材を置けるティーチャーズコーナー



◆旧小中学校の校旗



◆学年ごとに山で分けた職員室、教職員の歓談スペースもある



◆長ぐつ兼用の下駄箱



◆リソースルームで多様な学びの場の整備



参加された委員の皆さんの声（視察アンケートのまとめ：抜粋）

1 視察の見学及び説明を聞いての感想（印象に残ったこと、特徴や工夫を感じた点、本町で生かせそうなこと）

【施設（教室、特別教室、トイレ、昇降口、職員室、備品等）】

- ・屋内プールは町と共用することで夏休み等でも開放できれば投資する価値はあるのではないかな。
- ・黒板のプロジェクターはぜひ導入してほしい。
- ・EVなどバリアフリーが整備されている点も参考になった。
- ・既存の学校も壁の色を明るくしてほしい。白い壁に木目の廊下が明るい環境を作っていた。生徒の学ぶ気持ちは環境に左右されます。一貫校はもちろん、今の学校も内装を明るくする取り組みをお願いしたい。（長きに渡って使った学校とのお別れを明るく迎えるためにみんなで壁をつくろう！と子供を巻き込んでも良い）
- ・階段の色分けはよかった。
- ・教室のロッカーは広めであるが、まだ、用具が入りきらないで廊下のロッカーに入っていた。児童生徒数がちがうのだが「物入れ」は場所・数・大きさは大事だと思います。
- ・児童生徒数や教職員数に驚いたが、規模は違っても基本的に必要な教室や設備は変わらないと思いました。明るく、廊下が広い印象、階段の色が違うなど使い勝手がよい配慮も大切です。先の見通しをもって活用できるように間仕切りも工夫していました。
- ・廊下や階段が広い。建物が新しいせいか、全体が明るく開放的であると感じた。
- ・床可動式プールも素晴らしいと感じた。但し、実際海で泳ぐのとプールで泳ぐのは大違い。波の影響は大きい。校内にプールをつくるにしても、海での泳ぐ体験も大事にして欲しい。
- ・壁や床が明るい色だったので、校舎全体が明るかった。
- ・新しい校舎に似つかわしく職員室の机が新しいデザインのもので職員のモチベーションが上がる。
- ・小集団が集まる機会（学年ごとの集会、保護者会、部活動等のミーティング等）に使える場所があって便利。運動部が活動できる場所がいくつかあり便利。
- ・廊下がとても広く、“廊下を廊下として使用していない”とおっしゃっていたように、教室と廊下の間仕切りを開放すると広い多目的スペースができ、様々な活動に利用している様子がうかがえ大変良いと思った。また1年生と9年生がすれ違っても広い廊下は安全面においても有益だと思った。
- ・美術作品の保管室や教員が職員室と教室に何度も足を運ばなくても良いため teachers room など、教員の要望が反映されたと思われる部屋が多くあり良いと思った。
- ・校舎がひろくなるとその分、掃除をする範囲が広がるので、子ども達の清掃だけでは、隅々まで行き届かない。地域の人も出入りすることを考えると、定期的に掃除業者などをいれることを検討する必要があると感じた（特に、毎日使用するトイレなど）。

- ・運動場に芝生の部分があり、小学生と中学生の利用のすみわけが目に見えてわかりやすく良いと思った。
- ・開放的で、自然光をたくさん取り入れた校舎のつくりは、いるだけで気持ちがよいのでとてもよいと思いました。
- ・絵具や習字の学習のあと、手洗い場とは別に、専用の洗い場を設けたほうがよいのではないかな？
- ・ジェンダーレストイレの配置について検討したい（地域の方も来るならなおさら必要では？）。また、おむつ替えスペース・授乳室も必要になるのかなども検討が必要。
- ・リソースルームを見学できなかったが、子ども達が自分のペースで過ごし、心理的安全が保たれる環境を検討したい。
- ・教室の未来（町内にさらに子どもが少なくなり、教室が不要になること）を考えると、教室内のロッカーをこれ以上大きくすることは難しいのかもしれないが、建築で解決できることがあれば検討していただきたい。
- ・風で飛びにくい、または飛んだとしても無害な、環境に配慮されたグラウンドの「砂」の検討が必要。
- ・屋上プールは理想的だけれど、建築コスト的に厳しいのでは…と感じた。
- ・教室と廊下を一つにしてのワークスペース、間仕切りを移動させての大小のホール、いずみのほっとスペース（教職員用）等は、真鶴での新校舎にぜひ欲しい。
- ・靴箱や教室のロッカー等の大きさに余裕がありそうでした。ここも取り入れて欲しい。

【開校までの準備】

- ・できるだけ地域・役場・保護者の連携を密にして「我がまちの学校」と自分ごとになるように準備を進めたい。
- ・隣接の小中学校敷地に旧校舎を残しながらなので、準備には好条件でしたが、苦勞したところをもっと聞きたかったです。
- ・“改築検討委員会を立ち上げ、決めなければいけないことを列挙して保護者、地域、子どもの意見を聞きながら、3年ほどかけて準備を進めた”という記述を拝読した。決定すべき事項が目白押しだが、今回のように感想を提出できることはとても有難く、今年度はぜひ検討事項の宿題や会議に参加しての感想を述べる機会をいただけたらと思う。
- ・グラウンドを整備するにあたって、周辺地域の方から「ヒマラヤ杉・ハナミズキ・桜は残してほしい」という要望があり、木を残したと伺った。校舎の建設場所が決まり次第、周辺住民への説明に加え、要望を伺う機会をなるべく早く設定する必要があると感じた。
- ・開校前に、それぞれの学校に運営協議会有り、新校舎についての共通理解や地域住民とのコミュニケーションがとりやすかったとのことでした。
- ・真鶴町でも、中学での運営協議会をスタートさせるか、まな小の運営協議会を二校のものとするかを、早急に検討する必要があると感じました。

【カリキュラム（小中の時程、専科教育、教科担任制、学年等の枠組み等）】

- ・時間割は学年で45分と50分に分けていたが、分ける必要性を感じなかった。全学年50分でいいのではないか。
- ・1年生から専科教育や教科担任を持たせても良いのではないかと感じた。専門性のある教諭が教えることで意欲的に学べる学校が作れると感じる。
- ・縦割り活動は積極的に行ってほしい。特に、九九の取り組みはお互いにメリットがあると感じた。
- ・時程（前期課程と後期課程）のズレが最小限にできていた。
- ・教室の配置にどのような意図があるかを知りたいです。それにより、4-3-2制を子供達が意識できている、感じているかどうかもお聞きしたいです。
- ・工夫されているところが多く、参考になることばかりだった。事前に案を作成して、小中で検討してもらおうとよいと思います。
- ・1～4年生は45分、5～9年生は50分授業と異なる時程に対し、1、3、5校時のスタート時間を合わせ、チャイムを鳴らす工夫が良いと思った。一見不可能に見えることも工夫を施すことにより、実現化できる良い事例だと思った。
- ・1年と4年生が隣り合わせの教室に配置してあった。4-3-2の枠組みでは1年生と4年生が最小・最高学年となり、1年生から見ると4年生は6年生よりも身近な模範しやすい上級生であり、4年生から見ると1年生との関わりを通して早くからやりがいや責任感が芽生えることが想像でき、とても良いと思った。
- ・いずみの森は、学年もクラスも多いため、特別教室の使用のタイミングなど、カリキュラムを調整するのが至難の業だと感じた。45分授業の学年と、50分授業の学年が入り混ざるのに、特別教室の使用をどのように振り分けているのか気になった。
- ・学年のわけをⅠ期 Ⅱ期 Ⅲ期としたことによる、利点と欠点を伺いたかった。授業時間数も、5年生～50分授業になって実際にどうなのか。定期考査は5年生から必要なのか（中学受験等に力をいれる地域かどうかにも影響があるのでは？と感じた）。
- ・同じ校舎内で、Ⅰ期とⅡ期・Ⅲ期での授業時間が違うことへの対応（登校時間や昼食時間、チャイム等）の工夫で問題がないのか気になりました。

【教員の様子（教員人事（異動や校内配置）、教員免許、管理職体制（学校運営）等）】

- ・校長・副校長のうち、2名程度は5年以上いてほしい。体制を作って、振り返り改善と考えれば2～3年では固まらないうちに異動となってしまうため。
- ・100人を超える職員が一つにまとまる、同じベクトルを向くための取り組みがありましたら教えてください。
- ・4月29日の日経朝刊に「道徳は『教科化』で変わったか」～「考える授業」道半ばという記事が掲載されていました。教科化で期待されたのは、いじめをにくむ心の育成で、本来「考え、議論する道徳」をキーワードに道徳の質的な転換・充実を目指すものだったというものです。人権尊重の精神を養うには、学級活動や各種行事により道徳科の学びを具体的に実践することだと考えますが、貴校では学校独自の規模もとても大きくどのように実践されているのかと、どのように先生方への人権尊重の精神啓発を行っているのか教えて欲しい。

- ・校長 1 人、副校長 4 人（Ⅰ期・Ⅱ期・Ⅲ期と特別支援）という管理体制で運営されていて、特別支援の副校長がいらっしゃることに、生徒一人ひとりに適切な学びができる配慮が感じられ感銘を受ける。当町も特別支援には他の市町村に誇れる手厚い取り組みがあるので、新学校になっても当町の特色のひとつとなるような、さらなる充実をお願いしたい。
- ・小学 1 年生と中学生にたまたま廊下ですれ違ったが、体の大きさを含め、違いをはっきりと認識した。特に小学生は、萎縮してしまう子たちもいる可能性があるのでは、学校生活の動線をわける必要がある？ない？なども検討したい（逆に、まなづるの規模であれば一緒でも大丈夫なのか、、、など）。
- ・運動会は、今年、ひなづる幼稚園で新しい取り組みをおこなうので（従来の運動会にとらわれないかたち）それを参考に検討していただきたいと思っている。（暑い季節の授業時間の多くを、運動会練習に使わなくてもよいのでは。また、どうしても必要なのであれば、地域の人たちに開かれた学校として、町民運動会等町の行事と合体させてもよいのでは。）
- ・大規模校ゆえの大人数での組織、分担、伝達機能等、大変そうですが、真鶴の場合は小規模ですので、あまり心配しなくて良いかと思います。

【子どもたちの様子（授業、学校行事、休み時間や放課後、部活動等）】

- ・笑顔が多い印象はあった。
- ・生徒数の割に教室が広く使えているイメージがあった。開放感のある空間は学びやすさに繋がると感じた。
- ・おちついた雰囲気、学校が楽しいと感じているのが伝わりました。学年で行っている清掃の様子を見てみたかったです。
- ・授業中の様子は見ることはできましたが、休み時間の様子を見てみたかったです。清掃はたてわり班で行っていることを取り入れてもよいと思います。異学年交流の活動の一つとして考えていきたいです。
- ・自分のことで恐縮だが、岩小は単級で 6 年間、真鶴中学校は 1 学年 4 クラスで 3 年間過ごした。当時、小学校、中学校では縦の交流はほとんどなかったように記憶している。特に小学校では放課後、同級生と毎日遊んでいた。1 学年違うだけで他の学年は何をしていたのか全くわからない（学校の内外とも）。極めて狭い世界で過ごしていたと後になって感じた。貴校の異学年交流計画案を見ると、通年の「わくわく・・・」や学期毎の様々な活動を行っており、これらを通じて、校長先生のお話の中にあつた「上級生は下級生に対する思いやり」「下級生は上級生に対するあこがれ」が具現化しているだと強く感じた。
- ・3 年生と 7 年生が理科の授業で木々の観察をしたり、2 年生が 8・9 年生とかけ算の練習をしたり、授業以外でも清掃や遊びなど、学年の垣根を越えて協働できるものはまさしく義務教育学校の強みであり、学習面での成長はもとより精神面の成長にもとても良いと思った。

【地域・保護者との連携、PTA等】

- ・当日は、活動がなかったのですが、もし、活動されていたらどのようなことをされているか伺いたいです。
- ・学校運営協議会（コミュニティスクール）といずみの森協同本部が中心となって取り組まれているのがよいと思います。コミュニティ・カレンダーは参考にしたいです。
- ・周りは住宅街であり、幹線道路より中に入った所は道路幅も狭い感じがした。地震などの発災時には、学校としてどのような対応をとるのか？
 - ◇ 児童・生徒への対応
 - ◇ 避難所開設・運営に対する学校の関与
 - ◇ 発災時の先生の役割分担
 - ◇ 自主防災組織（自治会など）との連携
 - ◇ 食料・水など公的備蓄の倉庫などは敷地内にあるのか？
- ・地域との連携のひとつの事例として地域ボランティアの方々が図書室の貸し出しカウンターに毎日来てくれることをお聞きした。まな小のコミュニティスクールにすぐにでも取り入れることができる事例ではないかと思った。学校が中心となって町全体に読書推進の輪が広がっていったらどんなに素敵なことかと思った。
- ・PTAと学校の関わり、地域や保護者との連携について、直接、該当の方に話をお聞きする機会がほしかった。
- ・学校運営協議会、いずみの森協働本部、PTA、それぞれの役割分担を明確に知りたかったです。
- ・コミュニティ・カレンダーは、活用範囲が広いと思います。いずれ、真鶴町でも作成できればと思いました。

2 その他、視察に行つて気づかれた点（自由感想）

- ・今回の大規模校ということで、規模の大きさに圧倒された。
- ・個人的には一貫校より義務教育学校の方が良いのではと感じた。理由として、校長が一人であり校長がリーダーシップを取るということがはっきりすること。コミュニティスクールがスタートすることにより、あえて小中に分ける必要性を感じないこと。中学生が小学校の新入生と関わることにより、子育てや人材を育てるという感覚を早い段階から体験できること。この3点から義務教育学校の方がより良い学びを生む場になるのではないかと感じた。
- ・視察はとても有意義なうえ、現在も未来にも活用できるところがたくさんありました。ありがとうございました。
- ・今回、多くの委員で義務教育学校を視察し、校長・副校長等により話を聞くことができ、実際に学校施設も見学することができ、とても有意義でした。事務局の皆様には、計画、調整、運転等大変お世話になりました。ありがとうございました。
- ・「地域との連携」ということでしたので、図書館の地域の方の利用を司書さんに尋ねました。課業日（課業時間）の地域の方の利用は無く、本の貸し出しは、児童生徒のみということでした。

- ・真鶴町教育委員会～八王子市教育委員会どちらも多忙な中の設定だったと思いますが、良い雰囲気の中、運営いただきありがとうございました。
- ・廊下からガラス越しに展示棚がいくつかありました。情操教育の面からも効果的だと思います。教員が使う収納棚には扉をつけ、常に整理整頓できるようにしたいです。
- ・新校舎建設にあたり、小中一貫校にするのか義務教育学校にするのか、まだ決まっていないが、今回の視察を通し、6-3制に縛られる必要がなく柔軟なカリキュラム指導ができる義務教育学校が当町には合うのではないかと感じた。当町はすでに中学校教員による乗り入れ授業を始め、幼保小中の活発な交流、幼少中教員の部会会議といった9年間の教育を見据えたグランドデザインがあり、小中一貫校の基盤が充分にできていると思う。
- ・学校は社会の縮図だと思うが、当町は生徒数の減少が急速に進み友人関係の固定化がより一層懸念される。しかしながら新校舎ができ小1～中3が同じ校舎で学ぶことにより、またコミュニティスクール導入による地域協働によっても、たて・よこ・ななめの関係が広がっていくことと思う。異なる他者と日々様々な場面で交わることは実社会の体现であり、柔軟性・共感性・傾聴か粘り強さといった心の成長が期待される。これからの時代、不透明な社会ではあるが“生きる力”を自分の好きなこと・得意なことを生かしつつ身につけていってほしいと思う。また学校建設は真鶴町の希望であり、全町民のための生涯学習の場にもなってほしいと改めて思った。
- ・人数が多く、真鶴とは比べられない規模の学校だったが、実際に現場をみたのはとても勉強になりました。
- ・新しい学校ができたら、視察などの可能性も考え、資料作成や映像制作も出てくるので今回の視察では時間がなく見聞きできなかった部分などもふくめ、映像にしておくとういと感じました。
- ・特別支援教育について、現在のまなづる小学校でも、先生方が大変骨をおられながら日々、子ども達に向きあっているとお聞きしています。ますます多様になる子ども達を、現場の先生や支援員の先生だけで支えるには限度があると思っています。養護学校の先生に定期的に来ていただきアドバイスをいただいたり、子ども達の様子を見ていただくなど、システムとして用意していただきたいです。それも、新しい学校の特色としていただければと思いました。
- ・いずみの森義務教育学校では、先生方が使う駐車場は用意されていないとのことでした。真鶴でも、それは検討してもよいのではと感じました。